

図書館員のひみつの本棚 第159回

図書館が舞台の物語。

『図書館の神様』

瀬尾まいこ／著 マガジンハウス 2003年 1200円（税抜）

<お勧め年齢>

乳幼児-- 低学年-- 中学年-- 高学年-- 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

主人公の清（きよ）は青春をバレーボールに捧げてきたのですが、ある出来事からバレーボールと距離をおくことになってしまいます。

時を経て、バレーボールへの気持ちが強くなってきた清は、恋人の助言もあり、バレーボール部の顧問になることを目的に、全く興味のなかった高校の国語の講師の職につきます。

しかし、清が顧問を務めることになった部活は文芸部。部員はたったの1人。3年生の垣内君。がっかりした清ですが、垣内君との文芸部の活動が、清からバレーボールを遠ざけた出来事について、清に救いとも呼べる心の変化をもたらしてくれます。

作者は『そして、バトンは渡された』で2019年の本屋大賞を受賞しています。

<子どもに手渡す時のポイント>

作中の清と垣内君の会話の中に、川端康成や三島由紀夫などの作家や文学作品が面白く登場します。それらの作家や作品を併せて紹介すると、普段は手に取らない文学にも目を向けてもらえるのではないかと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

